



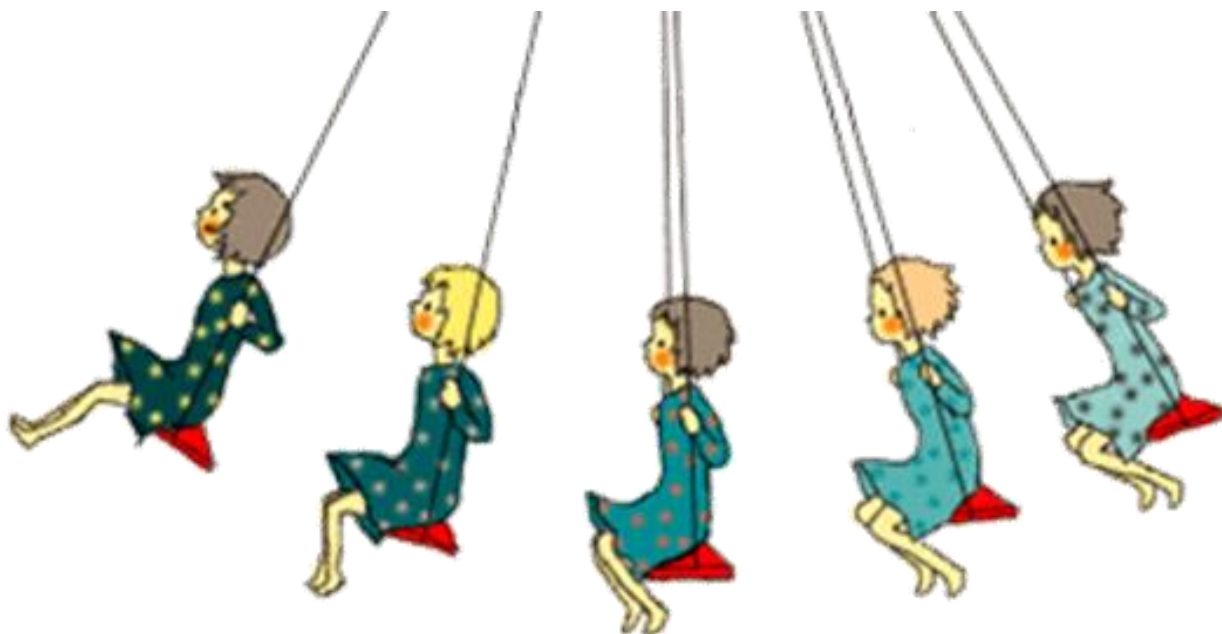
私たちは聴くことを大切にします。

ESの文字を左右対称に合わせることで、
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い
聴くことを表現しています。

NPO 法人えんぱわめんと堺/ES
NO.40 2022年10月発行
20周年記念号

も く じ

- P2～3 NPO 法人えんぱわめんと堺 20周年 総会&総会イベント報告
- P4～5 ガイドブック『エンパワメンターへの道しるべ』紹介
- P6 講座案内
- P7 北野真由美〈ふえみん〉に掲載
- P8～9 支援者はエンパワメンター
- P10 【事業報告】人権 NPO 協働助成事業『子どもとおとなのエンパワメント事業』
- P11 【事業報告】CAP プロジェクト
- P12～13 【事業報告】オレンジりぼん
- P14 【研修報告】日本語の中の役割語について考える 日本語学者 金水敏さん
- P15 メンバーエッセイ
- P16 事務局からのお知らせ



NPO 法人えんぱわめんと堺 20 周年総会&総会イベント報告

次のステージへ

代表理事 北野 真由美

こんにちは。

本日、特定非営利活動法人(NPO法人)えんぱわめんと堺/ES、第 20 回の総会を迎えることができました。改めて本日ご参加いただいた会員の皆さまはじめ、関係者の皆さまには、活動に関してのご理解とご協力、ご支援いただいていること、心よりお礼申し上げます。



1997年に私は、CAP を堺市すべての子どもに届けたいとの思いひとつで市民活動からスタートし 5 年後の2002年には法人格を持つ団体へと何もわからないまま NPO 法人を立ち上げました。全くゼロからのスタートで、教育委員会の委託事業として初めての契約に関する書類、行政との関わり、年々予算が変わったり、そのたびに議会への傍聴、子どもたちへ CAP プログラムを実施するために、あらゆることを学びながら、勉強し続けて 20 年がたちました。

今でも、学びは続いています。

実は、今日の 20 周年に向けての教材ガイドブックの発行は、数年前からの計画でもありました。エンパワメントの関わりで息を取り戻す変化を文字に残し、ここから社会へ向ける前進をガイドブックで広げようと考えました。

NPO 法人を継続するために、何ができるのか？

今年の総会は、えんぱわめんと堺の次のステップへの一歩だと思っています。また新たな道を切り開き、学び続けていこうと思っています。

今後も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



総会后、午後からは、「ここから、これから、エンパワターへの道しるべ」でガイドブックのお披露目と、20 年の歩みを振り返りたいと思っています。これまでのご縁、そして支えでもある支援の援、そしてお金と円滑の円、この円の延長上にはエンパワメンターが増えると考えてます。

まずは、20 回総会で、その行方を期待と希望を持って出航していきたいとの思いを総会のあいさつとさせていただきます。

2022 年 5 月 21 日

20周年記念イベント 『これまで・これから・これから』

第一部 トークセッション

ガイドブック『エンパワメントへの道しるべ』の制作に携わっていただき、たくさん学ばせてもらった 角田尚子さん（ERIC国際理解教育センター）と 栗本敦子さん（Facilitator's LABO（えふらぼ））をパネリストにお迎えして、北野真由美とのトークセッションを行いました。

事前に打ち合わせをすると本番は違うものになってしまうからと、まったくの打ち合わせなしでスタート。「書いた時点で過去のもの」という次への歩みに背中を押してくれる角田さんの言葉が印象的でした。



ES マークの風船や花で華やかな会場



壁面は20年間の懐かしい写真で埋め尽くしました

第二部 リレートーク

ビデオメッセージや手紙で多くの応援やお祝いの言葉をいただいたので、会場で視聴しました。その後会場に参加してくださった全員からと活動メンバーから一言スピーチ（いや、一言では終わらなかった・・・）。胸が熱くなるシーンが何度もありました。おかげさまで、温かい20周年総会イベントを開催することができました。開催にあたり、参加いただいた方、メッセージやお花を贈ってくださったみなさまに改めてお礼申し上げます。

〈メッセージの一部を紹介します〉

○ESさんが、とても愛されていることが伝わってくる総会でした。私が人生で参加した総会で1番、温かくて、楽しくて、自分にも学びのある総会でした。参加して「ありがとう」と皆さんに言われましたが、こちらこそ、「ありがとう」です。これからも、どうぞよろしくお願いします。

○多くの子どもたちに蒔いてこられた安心自信自由の種、「あなたはあなたのままでいいんだよ」と説いてこられた貴い活動に敬意と感謝とエールを送ります。蒔かれた種が芽だけでなく日本中世界中の子どもたちに自尊感情の花となって咲きますように。

○いつも応援してるよ～！

○CAPや性教育、子どもたちにも親にも関わってもらいめっちゃめっちゃ深い関係があって、仲間です。どうぞこれからも次の10年に向かってがんばってください。

○子ども支援の中でえんばわめんと堺が心の支えになっています。

○学校に来てもらい、子どもたちを元気にしてもらいました。20周年おめでとうございます。

○お互いにCAPの活動をがんばってきました。これから厳しい時代になるかもしれないけど細々でもやっていきたいです。



ガイドブック『エンパワメントへの道しるべ』 発刊

えんぱわめんと堺は「民間公益活動を促進するための休眠預金等に関わる資金の活用に関する法律」に基づく人権NPO協働助成事業として、ガイドブック『エンパワメントへの道しるべ』を発刊しました。

- STEP1 「ここから」子どもたちのつづやきから気づいたこと、エンパワメントの関わりで子どもが変化した瞬間のエピソードを掲載
子どものみかた、味方、見方がちりばめられています。
- STEP2 ワークショップや研修で使えるプログラムを掲載
- STEP3 えんぱわめんと堺の20年間の軌跡を掲載

子どもへのエンパワメントの関わりについて、また職場での人間関係づくりの参考に。
研修や勉強会などでぜひ活用いただきたいです。

絶賛販売中！

購入・お問い合わせは えんぱわめんと堺まで 1冊1,852円+税(合計2,000円)

*送料 5冊まで同梱370円



読者から続々と感想をいただいています

*チームワークを育てるには仲良しになることだと思い込んでいました。メンバーの関係性を興味深く読みました。

*保育現場で「落ちつかない子」への見方が“ちゃんとできていない”と見がちなことに気づいた。

*子どもたちの人権を主軸に、子どもたちの声を聴き、子どもたち主体のワークが行えるプログラム教本です。よくある教本と違うのは、子どもたちに変化が起きた時、おとなに変化が起きた時、その瞬間を届ける内容

*「教えられる人権」ではなく、「自然に身につく人権」が紹介されています。

*読み終えて、人情味溢れる、という言葉が思い浮かびました。 関西弁がところどころに出てくるからなわ

けではなく（それもあらかもですが 笑）「人情味溢れる」って、人間賛歌、、、というか、、、人というものの愛着？（いい意味でのおせっかい？）見捨てないこと、無条件の信頼、受容、、そういうことなんかなあ、と思いました。

*まだ途中ですが、素晴らしい子どもや教師とのやりとりを載せられていて感動 先日ズームで講演会を開催してお話いただいた静岡の幼稚園園長もされている岡村由紀子先生他のご著書、「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」には、同じように捉えた子供の見方の実践が載っています。

＊えんばわめんと堺さんがこの20年取り組んでこられたことに改めてぐっとなり、20周年を共に言祝ぐ気持ちが更に高まりました。

「“もったいない”から生まれた」本であることがよくわかりました。

STEP1「ここから」は、実際の事例（集）なのですが、まるで短編の物語り（しかもつながるシリーズ）を読んでいるような感覚になります。

ポイントが明示されたハウツーではなく、そこここにちりばめられた「エンパワメント」や「エンパワメンター」の大切な視点を、読み手自身が見つけ、理解し、意識化することを助けてくれます。

多様な事例ですが、一貫してそこにあることは「人への信頼!」、そして「Personal is Political」の視点。

角田さんの「エンパワメンターの学びをすべての人に届けたい」（巻頭言）に始まり、STEP1「ここから」、STEP2「まなびあい」、STEP3「えんばわめんとへ」まで、全編刺激的でした。

ステップ3にある「縁・援・円・Joy! えんばわめんと堺の継続的学びと成長の秘訣」の中、栗本さん（えふらぼ）が書かれている「信頼するから、仲良しにならない」というタイトルにはドキッとしましたが、わたしも『安心社会から信頼社会へ』をめざして活動していこう!と改めて思いました。

読み進む中で、自分や自分が関わる場をふりかえり、まだまだ学ぶこと（変わること・変えて行くこと・変えないこと）はたくさんあるな～、と思うと同時に、それが嫌なことではなく、ポツと灯りが灯りチカラが湧いてくるよな、「さて、またここから!」とそんな感覚がありました。

そして、「あ!これがエンパワメントってことじゃない!? \・0・/」と思いました。

現在わたしが関わっている、開校4年目となる「オルタナティブ・スクールあいち惟の森」の話を少々。

草創期の学校であり、「基本理念」をどう現場で具現化していくのかの試行錯誤が続いています。

（まあ、一生BQOE、一生“未だ途上”の道なのだと思いますが）。

そんな中、昨年と今年入った新たなスタッフからも「スタッフのファシリテーター研修をしたい」という声があがっております。

（中略）

◆P1の

「一人ひとりが大切にされなければ、学びじゃない。

気づきの学びじゃなければ身につかない。

身につかなければ、成長しない。

築きの力で社会とともに育ちたい。」に、この本の「ねがいとねらい」が込められていますね。

全ての教育者の共通基盤になるといいなあ、と思います。

◆エンパワメントというのは、「内なる力」と「外からの力」という2つの力の発揮のこと。

→もっている力を開花させるだけではなく、「その花を愛で認める環境を整える」という「外からの力」、両方の発揮のことである。「外からの力」、、、なるほど!

◆「あなたの見方の参考にさせていただきたいし、子どもだけでなく、同時代を生きているあなたの味方にもなりたいのです。」

→現在「どうしたものか、、、」と考えあぐねる課題を抱える自分なのですが、背中にそっと感じるあたたかな手、のようでした。そんな他者の存在があるから、「わたしはだいじょうぶ」と思えるのですね。わたしも、誰かにとって、「背中に感じるあたたかな手」のようになりたいです。

2022年度エンパワメント養成事業

エンパワメント研究会 Vol. 10
めざせ！エンパワメント

“エンパワメント”をめざすために、ガイドブック『エンパワメントへの道しるべ』からピックアップした内容で学びを深めていく研究会です。ともに学びましょう！

- 10月29日（土） 堺市総合福祉会館第4会議室
 - 12月17日（土） 堺市総合福祉会館第2会議室
 - 2023年2月25日（土） 堺市内の公共施設
- 時間はいずれもAM9：30～12：00

ファシリテーター
代表理事 北野真由美



“子ども支援”エンパワメント講座

放課後等デイサービス・学童保育・子育てひろば等の子ども支援者のみなさんに、子どもへの関わりの中で感じている課題や思い、必要とする知識や、支援者同士の関係性についてアンケートをとりました。そこから見えてきたポイントについて、それぞれの分野の、専門の講師を招き講座を開催します。

11月27日（日）9：30～12：00 サンスクエア堺第一会議室

子どもの特別支援について：伊丹 昌一さん（梅花女子大学心理こども学部心理学科教授）

2023年1月22日（日）13：30～16：00 サンスクエア堺第五会議室

子どもの遊びについて：根岸 基子さん（にしなりジャガピーパークプレイワーカー）

2023年2月19日（日）13：30～16：00 堺市産業振興センターセミナー室1

子どもの暴力（虐待）について：杉山 春さん（ルポライター）



申し込み：NPO法人 えんばわめんと堺/ES

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp TEL:072-230-5588 FAX:072-230-5589

参加費（一回につき） 一般：3000円（学生：2000円）賛助会員：2000円 正会員：1000円

代表理事 北野真由美が ふえみんNo.3329に掲載されました

つながるひろがるフェミ・ジャーナル

WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL *femin* ふえみん婦人民生新聞 No.3329 2022/09/05

ふえみん

contents

- 2 議会のいじめ・ハラスメント調査報告書
- 3 米国で中絶の権利を認めた判決が覆されて
- 4 映画『失われた時の中で』の坂田雅子監督に聞く
- 5 世田谷区役所の婚外子差別事件、その後
- 6 DVD『修道士は沈黙する』

「えんばわめんと唄」代表理事 北野真由美さん Kikano Mayumi 子どもたちの育ちに伴走する



モデル、BTS 沼。彼らが社会に投げかける

「さめちゃん、さめちゃん！」
北野真由美さんは、子どもたちからそう呼ばれている。
「サメは、じつとしてたら死んでしまう。動き続けないとデカクノヤ。それがニックネームの由来だ。その名の通りいつも活動的に動き回っていて、なかなか捕まらない。子どもの権利や女性のエンパワメントをテーマに、ファシリテーターとして全国各地を飛び回っている。

人生には、何度かの転機が訪れる。北野真由美さんにとって、最初の転機は30歳前後にやってきた。
24歳で結婚し、25歳で長女を出産。サラリーマンの夫とは程よい距離で、専業主婦として申

し分のない毎日。さあ次は男の子ね、という周りの声に多少疑問を感じながらも、第2子の妊娠。しかしなぜか次の妊娠はうまくいかずに死産産後を繰り返す。失意のどん底で、病室でめめめと泣いてはかりいた時、同室の女性の一言が胸に突き刺さる。「あなたには一人いるじゃないの！ 子どもに泣いた顔ばかり見せようとするの！」
「頭をガーンと殴られたような気がした。自分はその子のことを、もっとも見ていなかった。いったい私は、何をしているのや、と思っただけよ」
もう、どうしようもない、と聞き直したら2人目が生まれた。出産の前日に自身の父親が倒れ、葬式にも出られなかったが、そのことをやがて言う周囲に

対して以前の自分ではない。
「それまでは、周りの声も気にならなくて、つねに清く正しく美しく、と感じて、自分をよく見せようとしてたと思う。立ち止まってよく見てみたら、違った風景が見えてきた。たとえば、義母はバリバリのキャリアウーマン。義父は自分でお弁当を作るまめな人。自身の家庭では考えられない夫婦関係を築いて、固かった頭がほぐれていくのを感じた。父親がなくなったあと、母親の着る服がどんどんカラフルになっていったのも、考えを変えてきたわけになった。この社会で女性が自分らしく生きる意味、女性が自身をエンパワメントする力を知った。やりたいことは全部やりた、と思うようになった。

の施設に入所してきたその子が、ある日ほそと云った。
「さめちゃんが里親になったらええやんか。そしたら、うちみたいな子がでへんやろ」
自分のやっている活動に関わっているような気がした。それまでも、いろんな子どもたちが生活の中に入っていたが、あるときだいたい2人の週末里親になった。その後、週末だけではないうっしよに暮らしやすくなった。
「里親って、生き方やと思うねん。一人でも生活に加わることで、家族みんなの生き方が変わる」
おとなの勝手な都合で、過酷な生活を強いられる子どもたちがいる。「子どもの権利」を考えた時、親から早く離れたほうが良い場合もある。

「でも、里親は親じゃない。一番近くにいるおとな、いっしょに育っていく過程を見ていく人。育ちを伴走している人」だから、実の親のこともちゃんと伝えて、会いたかったらいつでも会いに行けるようにしている。親の代わりではない。
「親ではないおとながそばで見守っている、ということが大切なんやと思う。親じゃない」という言葉を何度も言った。

聞き手：大森順子
撮影：青口智子

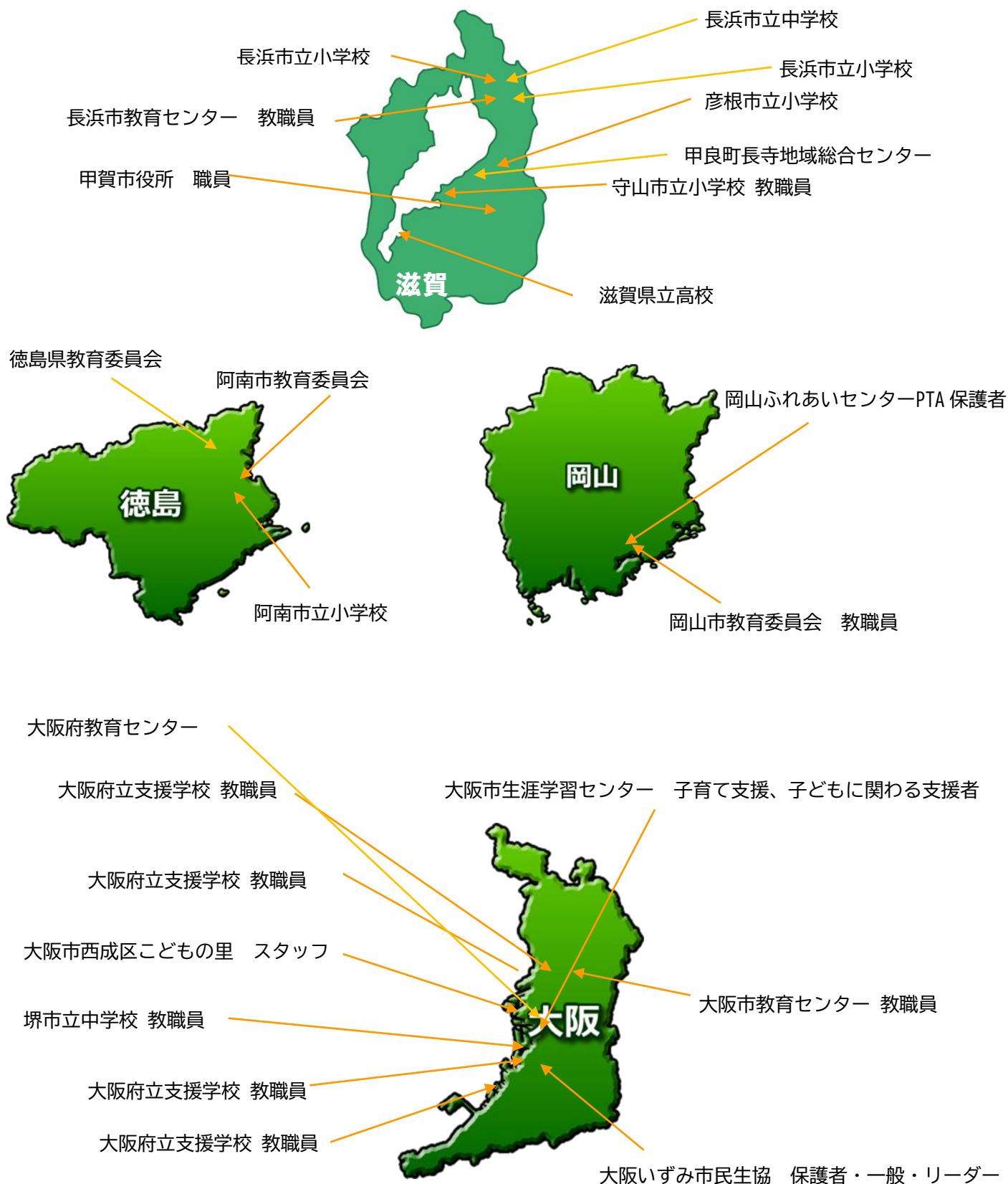
profile
きたの まゆみ
1957年生まれ。特定非営利活動法人えんばわめんと唄／ES代表理事。大阪多様性教育ネットワーク（ODEN）共同代表ファシリテーター。府立高等学校非常勤勤務ほか。人権研修ファシリテーターとしてワークショップを進めている。

「ふえみん婦人民生クラブ」
読んでくださいな

つながる/ひろがる/フェミ・ジャーナル ふえみん
<https://www.jca.apc.org/femin/>

支援者はエンパワメント

いよいよ動き出しました。子どもに関わるおとなは、エンパワメント



『エンパワメントへの道しるべ』の購入先を地図で表記。教職員はじめ、福祉関係、行政と多くの支援者に購入いただいています。

♪ワークショップ実施先の子ども・おとなのみなさんからたくさんの感想をいただいています♪

- 子どもに分かりやすく、自分のことを大切にする方法を教えてくださいました。子どもの中にきめ細やかに入られて、子どものつばやきをいろいろと取り上げてくださり、ありがたく思いました。
- 答えやすい質問の中に少し葛藤する場面を入れることで、子どもの本音が見えてきたように感じました。自分のよさに気づく多面鏡は子どもたちの印象に残ったと思います。
- 人は体も気持ちも持ち物も自分のもので、勝手に他人がうばってはいけないし、こわしてはいけないということも自分の中で改めて共感できました。他にも自分の中に新しい考え方をもらいました。
- わたしは「聴く」という漢字の意味を知ることができてよかったです。



●普通の高校生だったら学ぶことが出来ないことを学ぶことが出来て成長できたと思った。今までは性について学ぶことは抵抗があり今まで遠ざけていた。えんばわめんと堺さんの講演を聞いてこれから必要になるかもしれないことだからこの機会ですべて良かったと思う。中学、高校でも性について学ぶことはあったが、もっと深く掘り下げて学ぶことも大切なのではないかなと思った。

お互いを大切にするために

- ・恋愛幻想やネット情報から離れてみる
- ・まずは自分！自分を大切にする
- ・相手の「いや」を認めて、言いやすい関係
- ・お互いの境界線を知る

●境界線の話が印象に残った。いろんな場面で自分が嫌と覚ることがあるのは普通なことだと知って少し安心した。性の話を聞いて私はとても大切だなと思った。別の学校で聞くことのできない話を聞けてとても性について学べたと思った。そして性感染症に

についても学べて、自覚症状がないというのはとても怖くてしっかり気をつけないといけないんだなと思った。この話は年齢関係なしにいろんな人に話していくべきだと思った。

性感染症をふせぐために

コンドームを正しく使うことが大事

ひにん
避妊にもなる

- 些細な暴力「マイクロアグレッション」を、自分がいつのまにかしてないか、考えさせられました。気をつけて行動しないとイケないなと感じました。
- 十人十色で、考え方に文句などは言わず、理解してあげることが大事だということを学びました。
- 多様性を認められない人もいるし、意見などを出しづらくすることもあると知った。
- 多数派のほうが力があるから、力のないほうが意見を言いやすいようにすること。
- 人と自分の違いについて、自信を持てなかった部分がありましたが、少し自信がつきました。
- 私たちは知らないうちに息苦しい環境を作っているんだなと思いました。
- 多様性の話を聞いて、自分の中にも偏見は少なからずあって、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまったことがあるかもしれないと思い返してみたりしました。
- 一人ひとりの意見が出しづらい今の世の中では、多数の意見に賛成せざるを得ないことのほうが多いけれど、それでも自分が意見を出せるような世の中になればいいなと思った。

【民間公益活動を促進するための休眠預金等に関わる資金の活用に関する法律】に基づく

人権NPO協働助成事業

『子どもとおとなのエンパワメント事業』 報告その4



人権 NPO 協働助成事業が 2 年目に入り中間評価の時期になった。中間評価とは、助成金事業の実施体制の振り返り、見直しをすることである。事業計画の進捗や、目的達成のための道筋を再確認し、うまく進んでいなければ、事業計画を見直し、修正していく。2022年度に入ってから、中間評価のための研修、TOC(セオリーオブチェンジ)の見直し、システム入力、資金計画や事業計画の見直し、進捗報告書、中間評価報告書作成など、とにかくパソコンの画面とにらめっこの日々が続く。20 年間 ES で活動が続けてきたが、こんなにパソコンと向きあったのは初めてではないかと思う。とにかくこの助成金事業は作業が多い。

ES は目的に向かって猪突猛進、決まったら即行動、突っ走っていくことが多い団体である。振り返りが大事だということは日々の活動でも理解しているが、中間評価の作業に多くの時間を費やすことが面倒だと感じることも正直たくさんあった。

しかし、この大変な作業が、子どもの権利をベースに、子ども一人ひとりを尊重し、エンパワメントの関わりをする“エンパワメンター”を育成するという事業計画の進捗と、その目的や方向性を再確認することにつながっている。

何でも結果ばかりを重視する傾向がある中、失敗しても間違っても何度でもやり直すことができる、そのプロセスが大事ということを子どもたちにも伝えている。この中間評価はプロセスをひとつひとつ見直していく作業。わたしたちは事業計画で短期アウトカム(事業をすることで起こる変化や行動変容)をかなり欲張った。この事業をすることで子どもの権利尊重に意識を向け、子どもを肯定的にみる、子どもにとって信頼できる支援者を一人でも多く増やしていきたいからだ。

講座修了後の受講者の感想に、たくさんの学びがあり、自身の気づきから行動変容につながることも多く書かれている。わたしは 3 年後がとても楽しみだ！

by ありちゃん

7/10 田中一步さん・近藤孝子さん
「性自認に理由はいらない」なるほど！と思った。



8/7 長瀬正子さん
子どもの意見、気持ちを「聴く」、子どもの権利尊重はホント大事！！



長瀬さんの本のディスプレイ、とても参考になった♪



●「評価のハナマル」第二弾！！



評価のハナマルとは・・・

PRA(主体的参加地域評価法)のファシリテーターから学んだもの。参加者主体で振り返り項目を決めることができるように配慮された方法。評価項目を円形に割り当て、円の中心を 0、円の縁側 10 として、一人ひとりの評価を異なる色で書き込む。ハナマルの見方は、多くの人が良い評価を下した項目は色であふれている。したがって、みんなでハナマルを振り返って見るときは、色のない部分に焦点をあてて味わう。

「エンパワメンターの道しるべ」より

CAPプロジェクト

CAPとの出会いからフレッシューズを経て

次女が通う幼稚園で行われた保護者ワークショップに参加し初めてCAPのことを知りました。子どもへの暴力防止に対する知識習得が、シンプルで真新しく、しかも真髓をついているものが、こんな身近にあることに衝撃を受けたことを今も強く覚えています。長女が通っていた別の幼稚園ではCAPの話がなかったので、CAPのことを知らずに、おとなになる人が大勢いる現実も分かりました。

この直後から、えんばわめんと堺が開催するエンパワメント・ファシリテーター研究会に参加するようになりました。そこで、何気なく過ごす日常の中に、人を傷つけたり抑圧することにつながる土台があることを知りました。またメンバー同士の空気の中に入ると楽になる感じもありました。

CAPスペシャリストになって一年目が過ぎようとしています。この原稿を書くにあたり、4年前の当時の資料を見返してみると、書いてある言葉やメモの内容が改めて新鮮に自分の内面に届いてしまいました。今の自分の言動を振り返るとあれもこれもと気づきがたくさん出てきます。

CAPの研修を何度も行う中で、自分の中の不安や混乱等の気持ちが整理されたり再燃したりしますが、メンバーの協力を支えに理解・習熟に努めています。また、会議等の意見交換の場も、メンバーの考えに触れることができる貴重な時間です。

全ての子どもたちがCAPワークショップを体験できるように願い、学んできたことを目の前のCAPワークショップ実施にいかしていこうと思いながら、日々活動しています。

(H. K)

.....
9月5日（月）9月6日（火）の2日間、対面でCAPの研修会を実施しました。

お互いのロールプレイの立ち位置・タイミング・テンポ・動作・目線、それらの意味を確認し合いました。役を交代しながら繰り返し実践することで、新たな気づきや疑問を共有することができました。また、他のCAPグループのメンバーさんたちの参加と協力もあり、さらに意義のあるものになりました。2学期からのワークショップにいかせるように、このような研修会やワークショップ実施後の振り返りの場をもちながらメンバー同士のフィードバックを丁寧に積み重ねていきます。



〈研修会に参加してくれた

他のCAPグループのメンバーさんから頂いた感想〉

先日は参加できて光栄でした。ツボを押さえた一歩踏み込んだ深さのある時間でした。誰もがどんな意見も言える、落ち着いていて開かれた議論がありました。わたしがここに居てもいい、と思える場でした。ありがとうございました。 「えんばわめんと堺 Facebook より」

オレンジりぼん

きょうだい支援って？

私は大学を卒業してすぐ、大阪市生野区にある障がい者施設で働き始めた。大学の後輩からの誘いで飛び込んだ初めての福祉の世界。私が勤務する生活介護、作業所のすぐ近所には、歩いて帰れるくらいの場所に女性のグループホームがあった。7名の入居者さんが共同生活をして暮らす2階建の一軒家だ。

ある日の日曜日の朝、まだ外が薄暗い頃のことだった。Yさんがそっとベッドから起き上がり、そっと両足に靴下を履き、個室から静か～に2階の廊下へ顔を覗かせた。2階と1階を行き来する階段のすぐそばの廊下で寝ている私の顔をじっと覗き込むYさん。Yさんは寝起きの目を大きく見開いてパチパチと瞬きをしている。私は布団の中から薄目で目を開けてみた。ジーッと覗き込むYさんをそばに、私は何も言わずもう一度だけ目を閉じてみた。Yさんの口は笑っている。すごく嬉しそうだ。Yさんは、私の顔の横に腰を掛けた。「ね～」「ね～」「ね～」「く～る～」と教えてくれた。そうだ！今日は日曜日！Yさんのお姉さんが迎えにきてくれる日だ。お姉さんがグループホームのインターフォンを押すまで、まだ5時間もある。Yさんはお姉さんが迎えにくるのを今か今かと楽しみにしているようだった。40代半ばのYさんにはお姉さんが一人いる。Yさんの両親はすでに亡くなっており、Yさんをグループホームへ迎えにきてくれるのはいつもYさんのお姉さんだ。Yさんは、月に1度のお姉さんとお姉さんの赤ちゃんと家族で過ごす時間をとっても楽しみにしている。お姉さんは結婚し、新たに家庭をもち、子育てをしている。一方で、Yさんは作業所で仕事をし、グループホームでの共同生活で暮らしている。

家族間、きょうだい間で、年齢を重ねる中で、暮らしの環境は徐々に変化していく。本人もきょうだいも、そしてきょうだいの家族も、自分の暮らしを生きている。Yさんがお姉さんの迎えを今か今かと楽しみに待つ日曜日は、別々に暮らすYさんの暮らしときょうだいの暮らしが重なる時間である。Yさんとお姉さんが幸せで生きやすい暮らしが今後も妨げられない社会構造とはどのような「援助の輪」だろうかと思案する。過去、現在、未来のYさんとお姉さんの暮らしの変化から、社会資源のあり方のヒントがたくさん詰まっているように思う。



きょうだいチームHさん作のイラストボード



こころクラブのみなさんからお祝いメッセージをいただきました♪

～オレンジリボン、きょうだい支援の活動を通して、いま、思うこと～

それは、子ども時代に自分自身がサポートされたという経験はとても貴重だということ。

年齢を重ねていく過程で、きょうだいの家族構成の変化や働き方の変化、

また価値観の変化に直面した時に社会にどれだけ頼れるだろうか。

頼ってみようと思えるだろうか。

近年、きょうだい支援がさらに注目されてきている。

ここ数年で、人々の働き方や暮らし方、さまざまな社会的価値が大きく変化している。

年齢や性別や住んでいる地域を問わず、人が密集している集団世界の中の価値観の変化は、

心の孤立や孤独な環境を大量生産させているようにも感じる。

SDGs が掲げる理念、 ” Leave No One Behind ” 誰一人取り残さないために、

いま、子ども時代にどのような支援が求められているだろうか。

あいのっち



オレンジリボンには高校生の頃から参加させて頂き、今年で7年目になります。

初めて参加した頃は慣れないことばかりで、どう接したらいいかもわからず、わたしはこういった支援の専門家でも無いし仕方ないと思って時間だけが過ぎていくことの繰り返しでした。

しかし、数度と参加を続けた頃にひとりの女の子をきっかけに意識が変わりました。その女の子は今まで胸元の名札を見て「まなか？」と呼んでくれていたのですが、その日は違いました。女の子は部屋に入って来てすぐに、わたしを見て「まなか！」と名前を呼んでくれました。女の子は毎月参加しているわたしを覚えてくれていたのです。

その時に初めてわたしは、障がいを持った子どもたちや障がいを持った児がいる家庭への支援はその道のプロの方々が行うものと思い込んで、関係もないことだと壁を作っていたのだと気付きました。

それからは積極的に関わるように努めました。ひとりでいる子がいたら話しかけたり、名札を作っている子がいたら一緒に作ったりです。そうして前向きに関わり始めるといつしか次の開催はいつかなと想着て、毎月出会うことが楽しみになっていることに気が付きました。

多くの人が、ボランティアと耳にした時にイメージするのは地域の清掃や災害の被災者への支援などにとどまると思います。わたしもオレンジリボンに参加するまではそのひとりでした。

現在わたしは、以前のわたしのように、壁を作っている人こそオレンジリボンの活動に参加して欲しいと考えています。そうして活動を通して「障がい者の支援ってなんだか難しそう」「専門家の方々が行うことで自分には関係のないこと」などの壁を壊して、共に関わりあうことの喜びや楽しさを知って頂けたのならこれ以上のことはないと思います。

ボランティア参加学生 高本愛夏

日本語の中の役割語について考える

日本語学者 ^{きんすい}金水 ^{さとし}敏さん

役割語とは特定の人物像（年齢・性別・職業・階層・時代・容姿・風貌・性格など）を想起させ、ステレオタイプに依存した表現に用いられる言葉。

安易な役割語の使用は、時として表現者の意図した、また意図しない偏見や差別を伝えてしまう場合もあると学びました。

横地広海知(ヨコチロミチ)

A B C D E

1. そうですわ その秘密 わたくしが存じておりますわよ

2. そうじゃ わしが知っておるのじゃよ

3. そうだ その秘密はおれが知ってるってわけだぜ

4. そうさ その秘密はぼくが知ってるってわけさ

5. そうよ その秘密はあたしが知ってるのよ

「役割語かるた」
日本語学者金水敏氏より

参加者 戸高真弓美さんより感想をいただきました

日本語の中の役割語の良さと弱点を知ることから始めたい

金水敏先生の講演会「日本語の中の役割語について考える」に参加して、文学や活字の世界では豊かでイメージーションが広がる一方で、リアルな会話の中では実は多くのイレギュラーが起きる可能性があることを知りました。例えば、女の子が使う「やめて！」は、拒否ではなく依頼でしかないこと。Adoが歌う「うっせえわ」は、それくらい強く言わないと分かってもらえないといういらだちからきているのかも知れないこと。日本語の語尾だけで話している人の背景がイメージできる豊かさ、でも言うべきことをきっぱり、はっきり伝える鋭さをどうやって子どもたちに伝えていくのか…めっちゃめっちゃ難問だとため息をついていたら、北野さんから「ラップなら」という提案があり、なるほど！と膝を打ちました。後日、精神科医の知人には「やめなさい！」が良いのではとアドバイスももらいました。金水先生のお話を聞いて、母語だからこそ、日本語の特性を知ること、理解することが大切だと、改めて実感しました。

【メンバーエッセイ】



アキレス腱切れました



今年6月19日アキレス腱を断裂しました。入院・手術・退院を経て、今日でちょうど3ヵ月。「パンッ！と大きな音がした？」とよく訊かれますが、テニス中、音もなくあまり手応えなかったのに、切れてました。これまでなんとなく聞いていましたが、突然自分事になり、全快は12月中旬予定と診断され、現在リハビリ中です。

アキレス腱とは、脛脛(ふくらはぎ)の筋肉が踵(かかと)の関節にたどり着き、骨に固着するために腱になるそうです。検索すると1トンの力で牽引しても耐えられるほどの構造とありますが、それでも切れるとはどういうことなのか？年齢や競技レベルに関係なく10代くらいから起こるらしく、筋肉のコントロールが不十分になり、収縮力が強大になってしまいうことで切れてしまうようです。ただやはり運動不足や老化が、筋肉のコントロールを低下させるので、自身の受傷は充分納得です。コロナのせいにはしたくないけれど、コロナによる活動制限の影響は大きくて、以前は山登りやハイキング、マラソンなど、楽しい目標を立てて、できるだけ運動を心がけていましたが、目標なければ努力もしなくなり運動不足、そして久しぶりのテニス、その結果が今回の負傷となったのは言うまでもないことです。

断裂2日後には縫合手術、術後は痛みで苦しみましたが、24時間後にリハビリスタート。あとは回復一直線！と張りきりました。が、それがなかなかそううまくいきません。松葉杖や装具がないと歩けない、ひとりでどこにも行けない生活。「ここのものをそこに置く」だけのことが、普段の何倍もの大仕事。もっと重篤な病気であったり、突然の事故での重傷などとは違って、右足首の腱を傷めただけと思いつつも、患部をかばうことで、カラダの他の部分に負担がかかり別の痛みでへこみ、思うようにいかずイライラしました。術後2ヵ月ほどで、装具はとれましたが、たった2ヵ月の間で足の指を動かす筋力まで落ちてしまった現実には、ショックを受けました。筋肉は1日寝たきりでいると、3～5%筋力低下になるそうで、衰えるスピードに驚きます。でも逆に、筋肉は使えば使うほど増し、年齢に関係なく、骨や関節とは違って蘇生力も半端ないそうです。あきらめずに頑張りましょう！（自分に言い聞かせて笑）（何かできることから～）

この間、身近な人からあたたかい心遣いや、助けをたくさんいただきました。初対面の人からも「どうしたの？」「大変やったなあ、ムリしたらあかんよ」「手伝おうか？」と話しかけてもらったり、小さな子どもたちからも「なあ足痛いん？」とか、ドアを開けて待ってくれたり嬉しいこともたくさんあり、スタスタ歩いていた時には、出会えなかったことだなと思います。

経験して初めてわかることや感じることも、また自分が見えていることや理解しているつもりでもほんの一面だったり、考えさせられることがいろいろありました。想像力を働かせて、自分の感覚だけがすべてではないと意識し、周りの人々に心を向けていきたいなと思います。

残る痛みと、経過がノロノロな気がして、焦りと不安の真っ最中ですが、「マラソンや山登りも元通りにできるようになります、全然大丈夫！」と励ましてくれるリハビリの先生にも感謝です。

ほりちゃん





『子どもを暴力に向かわせるのは「何」？』

内閣府地域における男女共同参画を支援するためのアドバイザー派遣事業

講師：^{しんすご}辛淑玉さん（「のりこえねっと」共同代表）

日時：2023年1月15日（日）14:00～16:00

場所：堺市産業振興センター 会議室5 参加費：無料

定員：会場参加30名 Zoom参加50人

申し込み：Peatixにてお願いします（Peatixの登録が必要です）



生まれた頃から「ちゃんとおとなの言うことをききなさい」と言われ、常に受動的で主体性が身についていない子どもたち。完璧でないと成果にならず、自信につながらない子どもたち。

子どもの暴力は、ジェンダー、成果主義、同調圧力などの影響を受け、その子だけのせいではないと考えます。子どもの暴力からみえてくる社会の中にある課題について、日本と海外の子育てを比較しながら

辛淑玉さんに語ってもらい、みんなで考えたいと思います。

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000 円

（初年度のみ入会金 3,000 円）

賛助会員 1,000 円（入会金なし）

更新日は年2回（1月31日・8月31日）です。

◎ 会員有効期間は1年です。

◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 30 名

賛助会員 61 名（77 口）

寄附金 25,400 円

（2022 年 4 月～2022 年 9 月）

2022 年 9 月現在

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺／ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

<https://www.npo-es.org/>

ホームページや Facebook も見てね



編集後記

「あーそぼ」2歳の孫が誘ってくれる。「なにしようか？」と言っても特に何かを求めているわけでもなく、嬉しそうに「あーそぼ」を繰り返す。「あーそぼ」って言葉を発して遊んでるのに気が付いた。「あーそぼ。あそぼ」と真似てみた。大笑いをして「あーそぼ」と。何もなくてもワクワクしてきた。ワクワク感が伝染して楽しくなった。（same）

